



2018・2・1

第 295 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

2018 年内の強行突破めざす安部内閣・自民党

与野党こえた合意を一安倍首相

安倍首相が通常国会冒頭におこなった施政方針演説（22 日）、代表質問（23 日）への答弁要旨の憲法部分は次のとおり。

【施政方針演説】 50 年、100 年先の未来を見据えた国創りを行う。国のかたち、理想の姿を語るのは憲法です。各党が憲法の具体的な案を国会に持ち寄り、憲法審査会において、議論を深め、前にすすめていくことを期待します。

【答弁】 自衛隊は違憲だと主張する有力な政党も存在するが、自衛隊員に 9 条 2 項を残した上で、自衛隊の存在を憲法に明記することで、自衛隊の任務や権限に変更が生じることはない。時代の節目にあり、どのような国づくりを進めていくかという議論を深める時に来ている。与党、野党にかかわらず幅広い合意が形成され、国民的な理解が深を期待する。

九条の会が運営委員会

「九条の会」1 月 29 日運営委員会をひらき、分野別の会や首都圏の地域の会から 67 人が参加しました。

会議では、渡辺治・九条の会事務局員より、2018 年改憲をめぐる情勢について報告（別項要旨）があり、3000 万署名の取り組みについて交流しました。また 4 月 7 日〈東京・北とぴあホール〉で開かれる「九条の会集会～3000 万署名前進のために」の成功に向けての取り組みを確認しました。

各地・各界の「会」の発言から

◎ポスター評判良い。成人式に使った。若い人の関心薄いのもっと若い人に平和主義を伝えていきたい（府中 9 条の会）。

◎地域の朝のラジオ体操で「安倍嫌いな人いませんかと問いかけ、次に「私も嫌い」と言い対話していく。半分位が嫌いだ。ポスト入れもする。夕方、犬の散歩でまた声をかける。加憲は賛否両論あるが、安倍が勝手にすすめるのは許せないなという声もある（さいたま市西区指扇九条の会）。

◎人口 32 万人の越谷市で現在 3 万 8000 人集めた。会員 95 人、年 4 回会報を出し、毎月第 4 金曜に駅頭で署名を集めたり戸別訪問し、催し物には出かけていって訴えている（埼玉・越谷九条の会）

◎地域を区割りして 2～3 人で組んで個

別訪問している。前の署名 2400 もらったので、今回 3000 をめざしている。説明すると「うちは大丈夫です。／公務員だからできない。／旦那からもうやるなといわれている」と断られることもあるが、「息子にも渡す」と預かってくれる人や、立派な家のためらいながら入ると出てきて震える手で署名してくれたり、その都度ドラマがある。市内の住宅地図を作り、訪問した家を一軒一軒地図に色分けし、3000 筆の目標に対して、1120 筆集めた。地図落としをして九条の会ニュースを配っている。もっと署名をあとめてくれる人を増やしたい。(西多摩・日の出九条の会)

2018 年、改憲をめぐる情勢

九条の会事務局 渡辺 治

<解散総選挙後の改憲をめぐる状況>

昨年 10 月、安倍首相は、解散総選挙に打って出ました。最大の壁、「市民と野党の共闘」の亀裂につけ込み、解散・総選挙の衝撃で共闘の分断を図り、改憲勢力を確保するためです。希望への民進党の合流決定で共闘が一度は分断され、自公は 3 分の 2、改憲勢力も 8 割を占め、安倍首相の思惑は半分成功しましたが、戦争法反対以来の共闘の経験がそれ以上つけこむことを食い止める力となりました。立憲民主党が結党され、共闘の力で躍進したため、安倍首相の最大のねらいは達成できませんでした。改憲の決着は今年、に持ち越されたのです。

<共闘が突きつけた安倍改憲の困難>

安倍首相は、年頭会見で「今年こそ」と改憲の意欲を表明しましたが、選挙を経て、安倍改憲の前には 3 つの問題があります。

最大の問題は時間。衆院 3 分の 2 状態は 2021 年までのびましたが、19 年 7 月の参院選で 3 分の 2 をとれる保証はありません。しかもその前には天皇代替わりあり、国民投票の運動期間を考慮すると、改憲発議は、18 年通常国会、あるいは秋の臨時国会、どんなに遅くとも 19 年通常国会冒頭がリミットです。しかし、第 2 に、国民投票には絶対負けられません。国民投票は政権の信認投票のようになる。3 分の 2 があるからといって、戦争法や共謀罪法のような強行採決などの手法とりにくい。しかも、第 3 に、総選挙の結果、公明党は改憲に一層消極的ポーズをとらざるをえなくなり、立憲民主党が野党第一党になるなど、運動次第で発議を遅らすような障害物が台頭しました。

<2018 年に照準を絞った安倍改憲>

安倍首相は今年 18 年の強行突破を目指し、第 1 にスムーズに国会発議できるよう、公明、維新など野党取り込みをめざします。

12 月 20 日に自民党は「憲法改正に関する論点取りまとめ」を発表しましたが、そこでは、9 条改憲については本命の 1、2 項を存置して自衛隊を明記する案と 2 項削除案を、また緊急事態規定も任期延長だけを認めるものと政府への権限集中を認める案を、併記しました。「右より」の案も併記することで公明党に選ばせようという魂胆です。

また、自民党は 3 月 25 日の党大会で自民党案を決定し憲法審査会にかけることをもくろんでいます。その案もあくまで「中間報告」という形をとり、憲法審査会で公明、維新などの意見を入れ、改めて、各党共同提案というかたちで、「改憲原案」(改憲手続法 151 条)を国会に提出しようと図って

います。また、場合によっては、通常国会のみならず、臨時国会も使い、さらに19年通常国会冒頭までも視野に入れてなんとかして発議に持ち込もうという算段です。

<3000万署名で安倍改憲を阻もう！>

2018年が正念場です。市民と野党の共闘をさらに広げ、かつてない市民の共同で安倍改憲を阻まなければなりません。そのためのものが、九条の会も加わった「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」であり、その呼びかけた3000万人署名です。

九条の会の活動として、大事なこと3つ。

第1は、地域毎に目標を決めて、3000万署名の運動を急いで盛り上げることです。総選挙の結果、希望や民進さらに公明党も国民の動向を注視しています。地域からの改憲NOの声を突きつけ、とても発議などできない状況をつくることです。

第2は、運動の目標を発議阻止に置き、9条改憲NOの国民の意思を集めることです。また、国民投票手続きを決める改憲手続法は、2007年に第1次安倍政権の時代に強行された悪法です。市民の運動を規制し、改憲案が可決されやすくつくられています。めざすは、発議をさせないことです。そのためにも通常国会の山場に向け3000万の声を集めきることです。

第3は、安倍改憲の眼目である9条への自衛隊明記論の危険性—それは、安倍首相のいうような「何も変わらない」どころか、9条を根本的に改変してしまうということを徹底して訴えることです。世論調査では安倍政権による改憲には反対の声は強いが、9条1、2項を残して自衛隊を明記する案には、質問の仕方によってもばらつきがあり、

国民のなかに、この危険性が入っています。この点を訴えて、署名をとることです。

この1年が九条の会の踏ん張りどきです。

3000万署名運動の成功めざし

団地住民対象、賛同も署名も目標もち

【東京都江東区南砂町／南砂団地9条の会】 江東区の南砂団地9条の会は20日、結成1周年記念集会を団地内で開き、約80人が参加しました。

集会では、宇都宮健児・元日弁連会長が記念講演し、「国会における改憲発議を阻止できる可能性は十分にある」と強調。「改憲を阻止するためには、『3000万署名』を広めて、改憲を許さない市民運動をいかに広げるかにかかっている」と提起しました。

2部の懇親会には、戦争を体験した男性(93)が車いすで参加し、「戦争は絶対にやっちはいけない」と声を振り絞って発言。多くの参加者が「憲法9条は守らなければならない」と語りました。

「団地9条の会」の賛同人は現在400人を超え、今後、500人をめさずとしています。「3000万署名」も2月中に1000人分をやり遂げようと取り組んでいます。

スタンディングの魅力の交流も

【東京都葛飾区／さくらみち九条の会】

葛飾区柴又・高砂・鎌倉・金町地域で活動するさくらみち九条の会は13日、「3000万署名推進学習会 2018年秋に国民投票・本当ですか？」を開催し46人参加しました。

はじめに憲法会議の高橋信一事務局長が憲法パンフレット「憲法9条を変えて『戦争争する自衛隊』にしていいいのですか」を

活用しながら講演。講演後の質疑では「9条を知らない人が多い。9条を知らせることが大事では?」「若者層が他年代と比べ、自民党支持や憲法改正に賛成が多いのは?」「3000万という目標は、どういう数字なのか」等との質問・意見が出されました。

その後、3000万署名のとりくみを交流。年配の男性は9月15日からの区議選の期間を除く毎日、柴又駅に立ち署名を集めていると報告。のぼりを立てず、声を出さないため、当初は観光客などがちらっと見ていくだけだったが、この頃「私の地域でもやっています」等と声をかけてくる方が増えたと話し、「3000万を達成するためには日常的にとりくむことが必要ではないか」と署名推進を呼びかけました。

また、高砂橋で2015年から2年半、毎週火曜日の夕方にスタンディングを行い、戦争法廃止の訴えを行っているとの報告もありました。「安倍首相を辞めさせるまでやろうと頑張っているが、なかなか辞めないのが長くなった」と話しながらも、「おもしろく、気楽に、誰でも参加できるように行動し、世論を変える」と報告しました。(「憲法しんぶん速報版」NO826)

「50筆チャレンジャー」増やし

【神奈川県横須賀市／統一署名】23日、「3000万全国統一署名・横須賀」のキックオフ集会が開かれ、3月にパレードと集会、「50筆チャレンジャー」を増やすこと、大量宣伝に取り組むことを確認しました。

岸牧子共同代表は「署名の取り手を増やすことが決定的に大事」と強調、横須賀市民には、原子力空母母港化の是非を問う住

民投票で、1カ月間で署名を集める「受任者」を3千人に広げ、5万5千人分の署名を集めた経験があると紹介。「今回の改憲は、憲法を壊す改憲です。発議させないよう本気で取り組もうと呼びかけました。

呼びかけ15人のうちシャンソン歌手の河原栄子氏、弁護士の呉東正彦氏、学者の佐藤芳行、中西新太郎の両氏が登壇しました。

中西氏は、あいさつで横須賀は米海軍と海上自衛隊の基地があり、沖縄に次いで戦争に近い場所だと指摘。「9条が平和を守り、自衛隊を戦争に行かせない力を持っていることを、横須賀の町でからハッキリさせなくてはならない」と訴えました。

伊藤真弁護士が講演しました。

戦争体験語り1人で300筆集めるも

【和歌山市／南9条の会準備会】和歌山市南9条の会準備会は27日、「3000万署名交流会」を和歌山市で開きました。

「憲法9条を守る和歌市共同センター」の深谷登事務局長が講演。安倍改憲の危険な中身や日本会議などによる憲法改悪運動の実態を紹介。国会に改憲発議をさせないため「3000万署名」の意義を強調しました。

交流会では、和歌山市南部の各地域で幅広いよびかけ人を募り「戦争イヤ!憲法9条を守る和歌山市南の会(仮称)」を結成することを提案。すでに1人で署名300以上を集めている津野輝さん(88)は「自分も戦争で和歌山で焼かれて怖かった。戦争だけはやめてほしい。署名用紙が届きこれだったらやってもらえると思った。戦争を知っている年寄りがしつかり動かんとかかん」と話しました。

自衛隊規定追加の意味を分かりやすく

【千葉県四街道市／四街道9条の会等】

「戦争させない！四街道の会」は20日、四街道市で、総がかり行動実行委員会共同代表の高田健氏を招いて、「安倍改憲NO！3000万署名」の成功をめざす講演会を開き60人が参加しました。四街道9条の会と千葉9区市民連合が協賛しました。

高田氏は「総選挙では、全国の市民の後押しと共産党が候補者を一方的に降ろしたことで3野党全体で議席を増やし野党共闘路線か生き残った」と強調。安倍首相の改憲発言や改憲日程を紹介。「3000万署名」運動で改憲発議ができない状況をつくれれば安倍政権を倒す展望が生まれると述べました。

参加者は「憲法9条に自衛隊を書きこむ危険をどう説明したかよいか」と質問。高田氏は「憲法に書きこまれた自衛隊がかわいそうだということが一番の反論。それは戦場に行かされるということです」と指摘。

「安倍9条改憲は『戦争しない国』を変えることになるということができるだけ丁寧に説明できるかが勝負です」と答えました。

市民と野党の共同で安倍一強打倒を

【新潟市秋葉区／3000万署名すすめる会】

秋葉区の平和4団体（9条の会、平和連絡会、戦争をさせない1000人委員会、アフリカへ毛布を送る会）は21日、区内で「3000万署名をすすめる秋葉区発足集会」を開き、80人が参加。総選挙で野党統一候補として勝利した菊田真紀子衆院議員が連帯のあいさつをしました。

菊田議員は「市民と野党が力を合わせれ

ば安倍一強を倒せる道筋ができることを示した。さらに大きく発展させていきたい。国会では、新潟はすごいとあちこちから声をかけられる。9衆を変えなければならぬ理屈は通らない。皆さんが声を上げてくれることは心強い」と述べました。

自由党の森ゆうこ参議院議員がメッセージを寄せました。

情勢報告した9条の会の板橋育夫氏は、9日本の未来がかかったたたかいであり、くその根の運動と連帯で国会発議を阻止しようと訴えました。

方針提案した平和連絡会の加藤茂氏は、会として2万人の署名をめざし、4団体で全戸（2万）へのビラ配布をし、3台の宣伝カーを運行するなどして署名目標を達成しよう訴えました。

新日本婦人の会から、4団体が地域署名に入ったらごうかとの提案もあり、検討することになりました。

対話つうじ受験生も納得、署名

【長野市／岩槻九条の会】 岩槻9条の会は19日、9条改憲阻止の3000万署名を呼び掛け、高校生と対話がはずみました。

綱島浩子さんが通りがかった男子高校生4人に署名をすすめると、2人が立ち止まり署名用紙を見つめます。「仮に戦争になったら自衛隊に入る人も少なくなり、徴兵制もあり得る」と2人に話すと、高校生は「そしたら俺たちが行くことになるのは嫌だね」と返します。綱島さんが「自衛隊員も若い人も戦争に行かなくていいように、この署名をやっているのよ」と話すと2人は納得し署名。この高校生は受験生で、セン

ター試験のために政治・経済を勉強したこともあって政治には関心があったといいます。「戦争参加の可能性があるのは怖い。わずか自分ひとりのこととはいえ、署名が力になれば」と語りました。

元外交官の孫崎氏、9条の意義語る

【茨城県常総市／水海道九条の会等】

外務省の国際情報局長などを歴任してきた評論家の孫崎亨さんを迎え、日米関係や憲法などを考える講演会が28日、茨城県常総市内で聞かれました。「水海道九条の会」などでつくる実行委員会が主催。

講演のなかで孫崎さんは、日本政府が在日米軍基地のために毎年巨額の予算を計上する一方、貧困と格差を拡大させていることを批判し、北朝鮮情勢に関連してミサイル防衛にも言及。「ミサイルなどの軍事力では日本を防衛できない」と述べ、他国と戦争をしない関係を築く大切さを説きました。

そのうえで、「北朝鮮には『軍事力を行使しない』と約束することが核を使わせない方法だ」と力説、日本政府の北朝鮮の脅威をあおる手法を指弾。9条改憲について「安倍首相が描いているのは今の自衛隊ではない。アメリカといっしょに海外でたたかう自衛隊だ」と、その危険性を批判しました。

参加者から憲法と自衛隊との関係などについて聞かれた孫崎さんは「大量破壊兵器が進化したことで、武力で国を守るすべはない」と指摘。「平和的な手段し国は守れない。その原点は9条にある」と語りました。

世界を励ましている憲法九条

【静岡県函南町／県東部地域】 静岡県

函南町で1月21日、憲法9条改憲を阻止しようと「戦争させない！平和講演会」が行われ、200人が参加。県東部地域の9条の会などで構成する実行委員会が主催。伊豆の国市9条の会代表世話人の石田義明氏は、講演会を力に安倍政権による改憲を阻止する3000万署名を広げようと訴えました。

ジャーナリストの伊藤千尋氏が講演、日本の憲法9条は日本のみならず、コスタリカの公園には憲法9条が碑として存在すると紹介。同国が、軍事費を教育費に、兵隊の代わりに教員を増員する改革をしたことや、核兵器禁止条約採択に重要な役割をはたしたと話しました。「15%の人が動けば国は変わる。日本国内で世界に誇れる憲法の価値を伝えましょう」と述べました。多くの人が拍手をおくり、「元気をもらった」「展望がわいた」などの感想が寄せられました。

貧困の克服は戦争をしないこと

【栃木県／九条の会・栃木】 九条の会・栃木は20日、宇都宮市の県弁護士会館で、総会と記念講演会を開きました。

石川裕一郎聖学院大学教授が「貧困の克服と憲法」と題して講演。石川氏は、生活保護受給者の現状を説明し「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と規定した憲法25条が、政策にいかされていないことを告発。「貧困の克服は基本的人権を守ることであり、その最も大切なことは、戦争をしないことだ」と強調し、改憲の動きに反対を表明しました。

講演に先立つ総会では、「安倍9条改憲NO！全国統一署名」を推進するなどの方針を大きな拍手で確認しました。